



令和 8 年度
地域における保育の質の向上の体制整備
調査研究事業概要
～旭川モデルの構築に向けて～

ASAHIKAWA CITY

事業概要



令和8年度の主な取組

7つの主要取り組み

1 保育サポート コーディネーター巡回



- 市内施設への訪問
- 課題・ニーズヒアリング
- 対話型支援

2 ネットワーク構築・ 連携会議



- 定期会議開催
- 情報共有
- 課題抽出等

中核体制



旭川市保育センター

- 保育サポートコーディネーター配置(通年)
- 市内保育所・幼稚園・認定こども園等を巡回支援

連携ネットワーク



旭川市立大学



旭川私立幼稚園協会

連携会議



旭川民間保育所相互育成会



その他保育事業者
※連携会議:年3~4回開催

3 各種調査・分析



- アンケート調査
- 分析

4 優良事例自治体調査



- 保育士確保の実態調査
- 採用定着の課題分析
- 支援策の基礎資料作成

5 テーマ別小グループ 連携ワークショップ



- 3~5施設でグループ編成
- テーマ:発達支援、保護者対応、職員育成等
- 事例共有・実践的解決策検討

6 公開保育

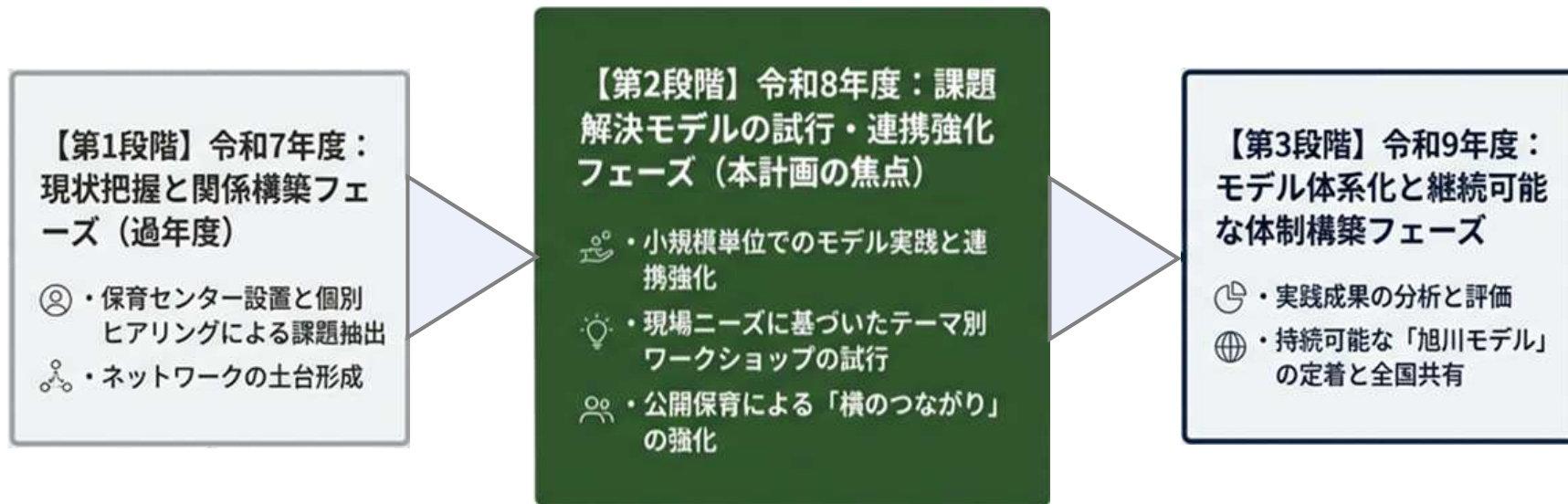


- 公立保育所で試行実施
- テーマ限定型
- 見学・学び合いの場

7 保育の質向上研修

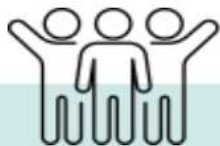


- 新任・中堅等向け
- 事例検討・グループワーク
- 実践重視の内容



令和8年度は、実態把握から一步踏み込み、
具体的な「課題解決アクション」を小規模かつ集中的に試行する

3つの戦略的柱と7つのアクション



【柱1：現場伴走・基盤強化】

現場のリアルな声を拾い上げ、
強固なネットワークで解決の土台を作る。



① 保育サポートコーディネーターによる巡回



② ネットワーク構築と連携会議の開催



【柱2：実践的な相互学習】

園同士の垣根を越え、現場主導で共通課題を解決する「面」の支援を展開する。



⑤ テーマ別小グループ連携ワークショップ



⑥ 地域における公開保育の実践



⑦ 保育の質向上に向けた研修



【柱3：知見・エビデンスの獲得】

地域内外のデータと先進事例を収集し、
次年度以降の包括的施策の根拠とする。



③ 各種調査・分析
(人材確保・定着等)

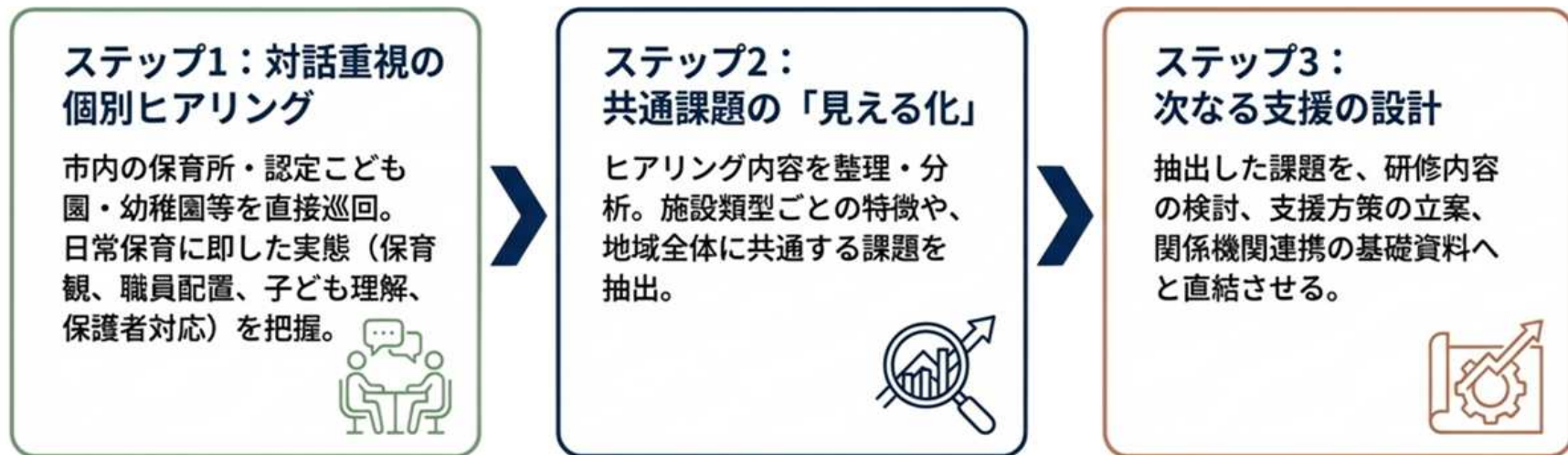


④ 優良事例自治体の調査
(中国・関東地方)

柱 1 現場伴走・基盤強化



保育サポートコーディネーターによる伴走



指導ではなく「伴走」。
現場に寄り添い、初期的信頼関係を構築しながら支援ニーズを体系的に把握します。

柱 1 現場伴走・基盤強化



定期的な連携会議の開催

年3～4回
程度開催



【主な協議・実施内容】

- ✓ 課題の共有：巡回や調査等で把握した現場のリアルな課題をテーブルに上げる。
- ✓ 対応策の検討：課題解決に向けたアプローチを多角的な視点から協議。
- ✓ 役割の整理：各主体の役割分担を明確化し、単発的で終わらない仕組みを作る。

保育所・幼稚園・教育機関・行政が継続的に協議する体制を構築し
地域全体での保育の質向上を推進する。

柱 2 実践的な相互学習



テーマ別小グループ連携モデルの実践



巡回や調査結果を踏まえ、少人数制のワークショップを実施

【想定される実践的テーマ】

- 発達に配慮を要する子どもへの対応
- 保育士確保・定着と人材育成
- 保護者対応

【運営の仕組み】

対象：1グループ3～5園程度の少人数制

手法：事例共有、課題整理、対応の工夫に関する意見交換

支援：保育サポートコーディネーターなどが参画し議論を可視化

得られた知見は情報共有資料に反映させ、参加園以外も含めた地域全体へ還元する。

柱 2 実践的な相互学習



公開保育

公開保育



① テーマ限定型・現場主導の「公開保育」

- ・フィールド：旭川市保育センター(神楽保育所)にて試行
- ・対象者：保育士を中心とし、普通の保育を見学。見学後のディスカッションにて課題や優良事例を共有
- ・振り返り：意見交換の場を設定し見学内容を共有。実践への落とし込みを図る

研修

対話型研修



② カテゴリ別の「対話型研修」

- ・手法：事例検討やグループワークを取入れ、園の横のつながりを重視
- ・対象：新任・中堅など、カテゴリごとに研修テーマを設定
- ・ゴール：現場で活用できる内容とし、個々の園の対応力向上と地域全体の底上げを実現する

柱3 知見・エビデンスの獲得



調査・分析

市内の実態調査・分析



【内部の知見の獲得：市内の実態調査・分析】

- ・ 焦点 : 地域で課題となっている人材確保や定着の現状など
- ・ 目的 : データに基づいた今後の施策や関係機関との連携方向性の明確化

事例調査

優良事例調査



【外部知見の獲得：優良事例の調査】

- ・ 対象 : 保育の質向上、人材育成、地域連携における先進的な取組を行う自治体・園・養成校など
- ・ 内容 : 取組の背景、実施体制、具体的な手法、成果と課題のヒアリング等
- ・ 活用 : 本市の地域特性に適した導入可能性を検証
モデル事業の改善や次年度施策への反映



令和8年度事業における5つの重要目標達成指標（KGI）

1. 実施体制の
妥当性

2. 中核機能の
有効性

3. 関係者の変化

4. プロセスの
課題

5. 次年度への
示唆

【検証アプローチ：定性と定量のハイブリッド評価】 (KPI)

定量指標：



- ・巡回の実施率
- ・把握・整理した課題件数
- ・公開保育見学の参加者数

定性評価：



- ・巡回記録や連携会議の議事録の質（支援方針に活用できる粒度か）
- ・アンケート結果と振り返り（気づきの言語化、実践へつながる兆し）

創出される成果について



【課題とニーズの体系的把握】

各園に散在していた課題が、保育サポートコーディネーターの伴走によって集約され、地域全体の共通課題としてデータ化・可視化される。



【園横断的な「学び合い」の場の創出】

小グループワークや公開保育を通じ、自園の枠を超えて実践や課題を共有できる「面的なつながり」と相互支援の土壌が形成される。



【先進手法とエビデンスの獲得】

内部の定着実態データと、外部（先進自治体）の優良事例の比較分析から、旭川市に応用可能な具体的施策の基礎資料が整備される。



【現場職員の専門性向上】

現場ニーズに直結した層別研修や対話型の振り返りにより、保育士個々の対応力が向上し、地域全体の保育の質の底上げが開始される。